

あの波にもう一度会いたい  
Unforgettable Waves



撮影/近藤公明

## ワイメア

ノースショア/ハワイ



### 福地孝行

思い出に残る波 BEST3

1. バイブライン/ハワイ
2. ワイメア/ハワイ
3. メンタワイHT/インドネシア

撮影/平沢久美子

## 死をも覚悟するコンディション

世界有数のビッグウェイブ・スポットのひとつとして名高い、ワイメア。サーフィン聖地ノースショアで最も大きなウネリに対応できる特別な場所であり、エディ・アイカウ・メモリアルなどビッグウェイブ・コンテストの開催地としても知られている。

福地孝行がワイメアの波を初めて滑ったのは19歳の時。先輩にあたる蛸塚氏や久我半男氏が挑戦する姿を見て「オレもやってみようかな」と思ったのがきっかけだったという。「そりゃ怖かったですよ、本当に」と、当時

を振り返りつつ、笑う。

「今でも、怖いのは変わらないかな」と語る福地が、心に深く刻まれることになる波にワイメアで遭遇したのは、昨シーズンの冬のことだった。「まだハワイに着いて2週間目だったこともあって、やるつもりもなく波だけをチェックしに行っただけです。そこで福地が目当てにしたのは、20フィートオーバーの巨大なウネリが押し寄せる、荒れ狂った大海原だった。遥か沖に目を向けると、巨大な波を掴む一人のサーファーの勇姿が飛び込んで

きた。が、テイクオフに失敗し、もの凄いい勢いで波に飲み込まれていく。「それが堀口真平だったんです。見ていたら何だかやる気が湧いてきて、急いでサーフボードを取りに行った」。ワイメアの波を滑るのなら、ボードの長さは「9から10後半は必要」になってくるという。日本から持ってきていた自分のボードでは短か過ぎたため、ニック野崎氏の家に置いてあった後輩の蛸塚樹の9'6"のビッグガンを買って取り、車で現地へ直行した。先ほどよりも波のサイズが上がってきたのが、

時折入ってくる特大セットはクローズアウト寸前。一步でも間違えれば、死を覚悟せざるを得ないコンディションとなっていた。それでも福地は、沖へ出ていった。

「1時間程度で良い波に5本も乗れたんです。あんな体験は初めてでした」。恐怖心を克服し、見事ワイメアの波をメイクしたのだった。

ビッグウェイブはスモールウェイブと違い、より多くの経験が要求される。この日、ワイメアで掴んだ波は、福地をひと回りもふた回りも大きく成長させたに違いない。



曲は歌えば歌うほど  
自分に沁みしてくる。  
旅というスパイスが加わって...

## Interview

サーフボードとギター片手に旅を続ける

# Keisonさんに聞く



「大切なものは？」と尋ねると、自信なさそうに「健康かな…」と答えたKeison。本当はほかにも大切なものがあると彼自身もわかっているはずなのに、なかなか口に出してくれないシャイな性格。でもそんな彼が話す言葉は、彼の作る曲のように飾らない、シンプルで心地良いものだった。

撮影/NOMU Masayuki Nomura  
聞き手/宇治智美 Tomomi Uj  
撮影協力/Tuff Beats

プロフィール  
1976年2月23日、静岡県静岡市生まれ。中学2年より兄の影響でギターを始める。2000年シングル「Fine」(Epic Records)でデビュー。同年、ファーストアルバム「Keison」(Epic Records)をリリース。現在はサーフボードとギターを片手に旅をしながらソロライブを行ない、多くのファンを魅了している。EDWINのイメージキャラクターとしても活躍中。3月7日には初のセルフカバーアルバム「ACOUSTIC CIRCUS」(Tuff Beats)をリリース予定。

## 放浪癖

旅をしながら様々な場所でライブをするのが「Keisonスタイル」だと思いますが、旅の魅力はいつ頃から自分の中に芽生えていたのですか？  
小さい頃からあまり落ち着きがなく、言ってみれば放浪癖みたいなものはありましたね。僕は6人兄弟の末っ子で、毎日にぎやかな家族の中で自由奔放に育ってきたから。高校を卒業してからも、一度調理の専門学校に入ったけど合わなくて辞めてしまって、少しのあいだ放浪生活をしていました。波乗りを始めたのもちょうどその頃だったと思います。

一番最初の放浪は？

小学校の時から。友達と「どこまで歩いて行けるか行ってみよう」とって、自分たちはもちろん帰るつもりでいたんだけど、親たちがすごく心配してしまっただけ。

放浪の魅力は？

波乗りして、歌って、酒呑んで、でまた次のところに行って歌って、でまた波乗りしてっていうスタイルが自分にとってすごく自然な流れなんだと思います。いろいろな人と知り合って、その土地のおいしい物を食べたり、いい波に乗ったり。一応、静岡を拠点

にはしているけれど、1年のうち3/4は各地を転々としているんです。でもそっちの方が自分に合っているというか、「自分はやってみるんだ」と感じられる。反対に家でじっとしているとムズムズしちゃってダメなんですよね。

現在はソロ活動をして、自分でプロデュースもしているんですよね？

そうですね。基本的には一人です。【有】タフビーツさんにはレコードを作ってもらったときにお世話になったり、それ以外にも呑み屋やサーフショップのオーナーとか、いろいろな人が僕一人ではできないこともサポートしてくれているから、こうやって一人でも各地をまわられるんです。

自分に無理のない流れの中でミュージシャンとして活動していくことと、仕事として生計を立てていくというバランスは上手に取れていますか？  
とりあえず今はいい感じでバランスは取れていると思います。借金もないしね(笑)。2月とか3月の寒い時期はあまりライブはしないから、CDを作るためにレコーディングしたりとか、夏場はとにかくライブづくめですね。

日本国内とはいえ、各地をまわるとなるとかなり経費もかかるのでは？

普通にまわってたら結構かかっちゃうけど、友達のとこに転がり込んだり、予算が出るときは出してもらったりとか、上手くやっています。でも、だんだんと今みたいに上手くやれるようになってきたのかな。地道な感じですね。

## メジャーからの離脱

東京に住んでいたこともあるんですよね？

メジャーデビューしていたときに3年くらい。でも、途中でもったいないからアパートを解約して、駐車場を借りて車で半年間くらい生活していました。ただ寝床があれば良かったんです。

事務所に入っていたから、お金には苦勞しなかったのでは？

メジャーとはいってもそれは売れたらの話だから。でも事務所からは決まったお給料を毎月もらっていたから、そんなに困ってはいなかったと思うんだけど、とにかく僕はマイペースだから、今のスタンスがいいんじゃないかな。自分だけの流れでやれるし。

どうしてメジャーでの活動を辞めたのですか？

エピックとかソニーとかのメジャーレーベル